

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1.5年制)		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	会話・発音(上級)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40 (2) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	502教室
担当教員	戸川 久代	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
進学後や就職後に必要な口頭発表ができるようになる。そのために必要なまとまった内容を聞く、伝える、そしてそのために必要な表現も学ぶ。卒業研究・課題研究発表会の参加に向けて、考える力も養う。						
《成績評価の方法と基準》						
a. 素点(定期試験):70% b. 出席評価点 :20% c. 平常評価点 :10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
『日本語上級話者への道』(スリーエーネットワーク)、聴解・発表ワークブック(スリーエーネットワーク) その他オリジナルハンドアウト シャドーイング『日本語を話そう』中上級編(くろしお出版)						
《授業外における学習方法》						
普段から日本語で考え、日本語で話そうという気持ちを持ってください。どんな言葉の聞き取りが苦手なのか、どんなタイプの言葉をよく間違えるのか、自分の弱点を知っておくことは大切です。						
《履修に当たっての留意点》						
後半は将来の就職を考え、面接練習も行う。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	口頭発表ができるようになる 発音/オリエンテーション	使用教材から適宜 抜粋	シャドーイングの練習	
	各コマにおける授業予定		まとまった話を聞きメモを取る/構成の確認			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	口頭発表ができるようになる 発音(シャドーイング)/献血について	使用教材から適宜 抜粋	シャドーイングの練習	
	各コマにおける授業予定		パソコンのクラスで発表した「献血について」を使用して発表の準備をする			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	口頭発表ができるようになる 話(シャドーイング)/献血について	使用教材から適宜 抜粋	シャドーイングの練習 グループで発表練習	
	各コマにおける授業予定		グループで発表準備			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	口頭発表ができるようになる 会話(シャドーイング)/献血について	使用教材から適宜 抜粋	シャドーイングの練習 グループで発表練習	
	各コマにおける授業予定		発表			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	口頭発表ができるようになる 会話(シャドーイング)/プレゼンテーション(1)	使用教材から適宜 抜粋	シャドーイングの練習	
	各コマにおける授業予定		言葉と文化/不登校/生活習慣病について			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	口頭発表ができるようになる 会話(シャドーイング)/プレゼンテーション(2)	使用教材から適宜 抜粋	シャドーイングの練習
		各コマにおける授業予定	言葉と文化/不登校/生活習慣病について アンケートを取る		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	口頭発表ができるようになる 会話(シャドーイング)/プレゼンテーション(3)	使用教材から適宜 抜粋	シャドーイングの練習
		各コマにおける授業予定	言葉と文化/不登校/生活習慣病について まとめる		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	口頭発表ができるようになる 会話(シャドーイング)/プレゼンテーション(4)	使用教材から適宜 抜粋	シャドーイングの練習
		各コマにおける授業予定	まとめる(PPT)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	口頭発表ができるようになる 会話(シャドーイング)/プレゼンテーション(5)	使用教材から適宜 抜粋	シャドーイングの練習
		各コマにおける授業予定	発表		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	口頭発表ができるようになる 会話(シャドーイング)/プレゼンテーション(6)	使用教材から適宜 抜粋	シャドーイングの練習
		各コマにおける授業予定	振り返り/他のグループへのコメント		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	群読(詩の音読)(1)/プレゼンテーション(7)	使用教材から適宜 抜粋	グループワーク
		各コマにおける授業予定	卒業研究・課題研究発表会に向けて(1)		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	群読(詩の音読)(1)/プレゼンテーション(8)	使用教材から適宜 抜粋	グループワーク
		各コマにおける授業予定	卒業研究・課題研究発表会に向けて(2)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	群読(詩の音読)(1)/プレゼンテーション(9)	使用教材から適宜 抜粋	グループワーク
		各コマにおける授業予定	卒業研究・課題研究発表会に向けて(3)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	群読(詩の音読)(1)/プレゼンテーション(10)	使用教材から適宜 抜粋	グループワーク
		各コマにおける授業予定	卒業研究・課題研究発表会に向けて(4)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	群読(詩の音読)(1)/プレゼンテーション(11)	使用教材から適宜 抜粋	グループワーク
		各コマにおける授業予定	卒業研究・課題研究発表会に向けて(5)		

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1.5年制)		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	会話・発音(上級)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時間	後期	教室名	502教室
担 当 教 員	戸川 久代	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
進学後や就職後に必要な口頭発表ができるようになる。そのために必要なまとまった内容を聞く、伝える、そしてそのために必要な表現も学ぶ。卒業研究・課題研究発表会の参加に向けて、考える力も養う。						
《成績評価の方法と基準》						
a. 素点(定期試験):70% b. 出席評価点 :20% c. 平常評価点 :10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
『日本語上級話者への道』(スリーエーネットワーク)、聴解・発表ワークブック(スリーエーネットワーク) その他オリジナルハンドアウト シャドーイング『日本語を話そう』中上級編(くろしお出版)						
《授業外における学習方法》						
普段から日本語で考え、日本語で話そうという気持ちを持ってください。どんな言葉の聞き取りが苦手なのか、どんなタイプの言葉をよく間違えるのか、自分の弱点を知っておくことは大切です。						
《履修に当たっての留意点》						
後半は将来の就職を考え、面接練習も行う。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	群読(詩の音読)(2)/プレゼンテーション(12)	使用教材から適 宜抜粋	グループワーク	
		各コマに おける 授業予定	卒業研究・課題研究発表会に向けて(6)			
第 17 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	就職に向けての準備(1)	学生用履歴書 ジョブカード(留 学生用)	ジョブカード記入	
		各コマに おける 授業予定	ジョブカードを使用しての自己分析(1)			
第 18 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	就職に向けての準備(2)	学生用履歴書 ジョブカード(留 学生用)	履歴書を書く	
		各コマに おける 授業予定	履歴書を書く			
第 19 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	就職に向けての準備(3)	学生用履歴書 ジョブカード(留 学生用)	面接の問題の答えを考 える	
		各コマに おける 授業予定	面接(1)			
第 20 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	就職に向けての準備(4)	学生用履歴書 ジョブカード(留 学生用)		
		各コマに おける 授業予定	面接(1)			